

講義名	19-企業会計入門/15-会計学入門			授業形態	
担当教員	米栖 正利 / 島田 奈美 / 孫 美英 / 早川 翔		開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	
	単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング

主題と概要

本講義は、これから会計学を学ぶ学生はもろんのこと、それ以外の分野に関心のある学生も対象に、会計分野の中でも専門が異なる複数の教員が会計に関するトピックスを紹介、解説を行う科目です。各講義では、新聞記事などの具体的な事例とそれを理解するための会計学の基本的な理論を組み合わせることで、会計が社会に与える影響や役割を実感するとともに、会計学に対する関心を高めることを目的としています。

到達目標

会計学とはどのような学問で、その中でもどのような分野が存在するかを理解する。
会計が社会でどのような役割を担っているのかを理解する。

提出課題

各担当教員の指示に従って下さい。なお、動画講義を履修する学生に対する課題作成と提出を、ある特定日時に集中限定して行う場合も計画しています。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

教員により課題を出すタイミング、フィードバックの方法が異なりますので、各担当教員の初回の講義にはなるべく出席し、指示に従ってください。

評価の基準

評価の方法は各担当教員により異なりますが、課題提出または小テストが課せられます。それぞれの実施方法等は各担当教員が講義時間中または掲示資料等によって告知します。なお、対面講義または動画講義、いずれの履修方法を選択しても、最終評価方法は同じです。

履修にあたっての注意・助言他

- ・欠席届は、欠席した回の担当教員に直接送ってください。異なる教員に送った場合には無効になる可能性があります。
- ・同じ曜日に複数クラスが開講されます。クラスを間違えて出席した場合には、その日に課されたテスト及び課題が評価されない可能性があります。間違えないように注意してください。
- ・なお、対面講義を履修する学生が不可抗力により動画講義の履修に変更になった場合の履修方法等については状況に応じて個別に対応します。
- ・動画講義を履修した学生への動画配信は、対面講義の終了後少なくとも2時間程度遅れてからになります。加えて、その都度の動画の配信時間等を一定期間設ける予定しています。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他	講義時間中に配布するか、またはPortalに一定期間掲示します。
-----	----------------------------------

授業計画

- 1.本講義の位置づけ
- 2.会計コース開講科目との関連
- 3.会計学とは
- 4.会計の役割
- 5.会計の基礎的前提
- 6.会計基準とその国際化
- 7.貸借対照表と損益計算書
- 8.貸借対照表と損益計算書
- 9.その他の財務諸表
- 10.まとめ（第1回-第4回）
- 11.管理会計と原価計算
- 12.管理会計と業績評価制度
- 13.CVP分析
- 14.単純総合原価計算
- 15.全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> オ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

履修学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各担当教員の指示に従い予習・復習を行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

各学部に所属する学生が、いずれの学科に所属するかにかかわらず学部専門科目を学ぶにあたっての共通の基礎を形成することができるよう、各学部の専門教育体系上の基礎となる科目に該当します。とりわけ「会計」を軸にした説明は示しておきます。企業会計の仕組みや制度を熟知し、資金面から経営問題について提案できる学生を育てることを目指して教育課程を編成します。主な履修は、企業の経理部門、金融機関、税理士などを対象とします。基幹科目としては「商業簿記1」、「財務会計論1」を中心に履修、基礎知識の確実な習得を目指します。展開科目としては応用的な会計科目、資金管理に関する科目、経営の理解に必要な経営の基礎科目を配置します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本事項を講義することが主目的のため、双方向講義という運営をとりません。もちろん、派生する項目や質問に対して補足説明を行う時間を設け履修者の理解を助けます。

実務経験の有無及び活用

備考

複数クラスを開講しますので、シラバスの順番が前後する可能性があります。ご了承ください。